

【知事表彰受賞事業】

「お父さんの読み聞かせ」講演会と実践発表

取組に至る背景・事業の目的

父親が子育てに参加するようになってきているが、その参加はまだまだ限られたものである。特に、絵本の読み聞かせは「母親によるもの」という固定観念があるが、父親による読み聞かせは、普段あまり意識しない「父親の声」を聴くことにより、子どもにとっても父親にとっても安らかな喜びをもたらす時間となると考える。

当団体が発足して10余年となるが、これまで実践してきたことを発表し、また「父親による読み聞かせ」講演会を実施することにより広く父親の子育て参加を推進したい。

事業内容

- 日時 平成26年7月27日(日)
- 場所 中野市立図書館
- 内容
  - ・会員による読み聞かせ発表
  - ・講演会「おとうさんの読み聞かせを学ぼう。」
 講師：三四郎
- 参加者：約60名(子育て中の父親と子どもを中心に)
- 講演会開催のチラシに会員募集を盛り込み、市内保育園や図書館、子育て支援センター、児童センター等へ配布した。
- 中野市教育委員会及び中野市子ども読書活動推進連絡会議と連携し、対象年齢ごとの「読んであげたい絵本」を冊子にしたものを読み聞かせの会で配布した。



【講演会の様子】

事業効果

- 長年読み聞かせ活動を行っているが、父親の参加はここ1、2年見られるようになったものの、決して多くはない。今回の講演会は父親たちにも人気が高く影響力のある三四郎さんをお招きしたことで、父親を中心に多くの参加があった。
- 会員による実践発表を見ていただいたことにより、新たな会員が増えた。
- これをひとつのきっかけとし、家庭においても父親による読み聞かせが行われるのではと期待している。



【講演会ポスター】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

○地域の子育て支援センターや公民館の子育て講座、図書館の読み聞かせ会など年間30~40回の読み聞かせ活動を行っているが、最近では実践発表だけではなく子育て講話も求められるようになってきた。また、障害者施設における読み聞かせ活動も積極的に行っており、より活発な活動ができるよう会員の増加を目指している。

【選定のポイント】

「イクメン」という言葉が生まれたものの実際どのように育児に関わったらいいか戸惑う父親もいると思われるが、「お父さんによる読み聞かせ」は父親による育児スタイルの一つを提示したものであり、また県内400以上ある読み聞かせの会でも唯一の男性グループとも言われており、モデル性が高いと評価できる。

団体名	おはなし♡びっくりにばこ(おとこぐみ)(中野市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	090-4948-4213(小島 佐和子)	事業費	600,428円
		支援金額	450,000円